

「第五巻 きもの」

名古屋帯

解説

帯の本来の形は、丸帯ですが、名古屋帯のように帯も、時代と共に

仕立てや柄付けが、変化していきます。

名古屋帯は大正年間に名古屋の女学校の先生がお太鼓結び専用の帯として考案された事から名古屋帯と呼ばれているそうです。

第一部

二十頁の所に帯締め結び方を三十秒程の動画を補足として、付け加えています。

第二部

この本の最後の頁に帯揚げの結び方を一分程の動画で説明しております。



今回第一部ではありませんが、動画を使って帯締めの結び方と帯揚げの結び方を説明して降ります。詳細は上の第二部第二部のところに記載しております。

無償配布

〒663-8153 兵庫県西宮市南甲子園1-7-7
電話 0120-25-4677 fax 06-6411-4655
代表 近藤 みゆき

www.miyuki-kimono.com

MIYUKI-kimono着付け教室

目次

準備	1
手先、たれ先を見極める	
帯を巻きつける場所	2
(六通柄、お太鼓柄、全通柄)	
帯を巻きつける	6
お太鼓を作る	11
帯締めをする	17
帯揚げの始末をする	21
出来上がり	25

準備



名古屋帯
帯板(ゴムが付いたものが便利です)
帯枕
帯揚げ
帯締め
腰紐 1 本
帯枕に帯揚げをとめるゴム



帯枕を帯揚げで包み、ゴムでとめておきます。

手先・たれ先を見極めます。



上 手先 (半分の幅で仕立てあります)
下 たれ先 (かいきり線があります)

帯を巻きつけ始める場所を確認します。(手先を右に、輪を下にして巻きます)



帯板をします。
(ゴムが付いていれば、固定出来ますので便利です)

六通柄



胴柄の始まりを左手で持ち、右手はそこから
30cm ~ 40cm 程の所を持ちます。



その左手を背中心に持っていき、巻き始めます。

お太鼓柄



前の柄を見せたい位置にあてます。



そのまま帯を後に回し、胴一回り分の長さを測ります。



測った場所をしっかりとったまま、前に持ってきてきます。



左手を離し、左手で右手の場所に持ち替えます。



右手は、左手から 30cm ~ 40cm 程の所を持ちます。



左手を背中心に持っていき、巻き始めます。

全通柄



手先の長さを測ります。
帯幅の2倍～2倍半（60cm～70cm）
（2倍が標準ですが、帯が長い場合や、細身の方は、2倍半測って下さい。）



上記の様に測った場所（手先から 60cm～70cm/
帯幅の2倍～2倍半）を右手で持ちます。



その右手を背中心に持っていき、巻き始めます。

帯を巻きつけます。(手先を右に、輪を下にして巻きつけます。)



背中心で両手首を合わせます。

ここから先は、今、背中に当たっている両手首を支点にして手を動かします。



右手でしっかりと帯を持ち、手の甲(指先まで)を、左手首の上に当てます。



左の手先を少し上げます。
(手先が落ちないようにする為です)



右手をグーにして、手首を支点に、その握り拳を下に向けます。



左手に帯を持ち、右手の握り拳の上に、左手の甲（指先まで）を当てます。



右手を真下に下ろし、その位置で帯の上線をしっかり持ちます。



右手で持った帯を持ち上げ、右脇で挟みます。



左手で手先の左側を持ち、右手は帯の上線を持ち、右手を前に押してしっかり締めます。

(左手は、帯が右に回らない様に支えるだけです。)



左手は前の帯に持ち替え、右手で帯の重なりを確認します。



左手で右肩甲骨の下まで、もうひと巻きします。

この時、上線の帯の重なりを確認しておきます。



もう一度、左手で手先の左側を持ち、右手は帯の上線を持ち、右手を前に押し締めます。

(締め加減は、すでに巻いている帯に添わず程度です。)



背中心で帯の下線2枚を帯止めや、クリップでとめます。

(注)ここで、とめ具を使用しなくても出来ますが、使用すると、お太鼓を作る時に帯が緩まず、安心です。



手先を帯の上線で斜め下に折り返します。

(注)とめ具を使用されなかった方は、この頁の作業をしっかり行って下さい。

(手先をしっかりと、帯に添わせなければ、帯が緩んできます。)



脇で帯の下線に沿わせて斜め上に折り上げます。



胸元に挟みます。

お太鼓を作ります。



お太鼓になる所が、半分に折れていまして、手前のみみを下から外に回して、一枚に広げます。



帯の下に帯枕を入れます。

(帯枕を当てる位置)

六通柄・全通柄

なるべく脇に近い位置

お太鼓柄

お太鼓の中心よりもう少し上に柄のポイントがくる位置



右手で帯（帯枕）の上をしっかり持ち、後ろへ回します。

この時、右のお袖が邪魔になりますので、腕に掛けておきます。



後ろで帯を持ち替えます。

4本の指は帯の中に入り、帯枕を持ちます。

親指は帯の外で、帯枕の裏を持ちます。



親指を帯枕の下線に当て、両サイドに引き合い帯枕の裏のしわを綺麗に取ります。



帯枕と帯をしっかり持ち、帯枕を帯の上線の上
のせます。
(帯枕の位置に自分の背中を持っていくと、楽に
のせられます。)



帯枕の紐と帯揚げを、前に回してきます。
帯揚げと帯枕の紐をはずし、帯枕の紐をしっかりと結びます。

帯枕の紐は、少し斜め下に押し、帯枕の裏をし
っかり背中に当てます。

枕の紐は、横に締めるのではなく、前に押し
締めるのが、コツです。



(背中に帯枕がしっかり当たっている状態を
保ちながら、結んで下さい。)



帯揚げは仮結びにして、先が邪魔にならない様に挟んでおきます。



腰紐を帯の下線に当てます。



その腰紐を、まっすぐお太鼓の方に移し、人差し指で腰紐を包み上げます。



片方の手で、その包み上げた中心を持ちます。



空いた手で、たれの長さ(人差し指1本分が標準)だけ残して上げます。



お太鼓とたれの端を合わせ、たれの長さを測ります。(たれの長さは、人差し指1本分が標準です。)

(注意)

たれの長さが短い時は、たれを引き出します。
たれの長さが長い時は、もう一度お太鼓の下線の中心を持ち、空いた手で、上に上げて調整します。



腰紐は、右前の帯の上でしっかりと締め、蝶結びにします。

(この紐がゆるいと、これから先、お太鼓に手先や帯締めを通すたび、お太鼓の形が崩れます。)



腰紐の通っている所に、手先を通します。



手先はお太鼓の端まで通します。



長い分は輪の方で内側に折込みます。



帯締めを、手先を通した上に左側から通します。



手先の中央を通すように気を付けます。

(注意)

お太鼓の折り上げた部分が短い時は、それに架かっているか十分に注意が必要です。



帯締めは、体の前で穂先と穂先を合わせ、左右対称にします。



左を上にして重ねます。



上に重なっている方を、上から巻きつけます。



帯締め結び目のきわを、下から持ち、前へ押し
て締めます。締めたら、結び目のきわに持ち替え、
もう一度締めます。

これを何度か繰り返し、しっかり締めます。

(帯締めが緩いと、帯が緩みます。)



上に出ている帯締りを、上で横に曲げます。



下に出ている帯締りを、下から巻きつけます。



そのまま横に、しっかり締め切ります。



帯締めの穂先は、右は上から下に、左は下から上に、挟みます。





仮止めをしている、腰紐をほどきます。

帯揚げの始末をします。



帯揚げは、一度脇まで綺麗にはずします。



帯揚げのみみが、覗かないように、4cm～5cm幅になる様にたたみます。

まず、内側に三つ折にします。
それを、更にふたつに折ります。
そうすると、ちょうど良い幅になります。



帯揚げは、左を上にして重ねます。



上に重ねた帯揚げを、巻きつけます。



上になった部分を綺麗に整えます。



下から出ている帯揚げを、横に曲げます。



上から出ている帯揚げを、横に曲げた帯揚げに巻きつけて、結びます。



結びきる前に、結び目に左手の人差し指を入れます。(結び目を綺麗にする point です)



指を抜きながら、しっかりと締め切ります。



残った帯揚げは、帯板と体の間にいれ込みます。
(帯揚げは、下の方に差し込むと楽です)

最初に整えた帯揚げが、綺麗に帯の上線から見えるように気をつけます。

(残った帯揚げを、最初に整えた帯揚げにかぶせない様にして下さい)

仕上げ



出来ましたら、長襦袢のお襟元、お着物のお襟元、帯揚げの結び目、帯締め結び目が体の中心を通っているかを確認します。

出来上がりです。



Produce by MIYUKI-kimono

名古屋帯

MIYUKI-kimono着付け教室

準備	1
帯を巻きつける場所	2
(六通柄、お太鼓柄、全通柄)	
帯を巻きつける	6
お太鼓を作る	11
帯締めをする	17
帯揚げの始末をする	21
出来上がり	25